
友達～プロローグ～

昼乃春空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友達〜プロローグ〜

【Nコード】

N9817T

【作者名】

昼乃春空

【あらすじ】

・・・特にありません！！

始まり。
(前書き)

主人公の名前はわざと書いていません!! (書き忘れていたのは絶対内緒)

始まり。

「友達って何だろう」

おそらく皆が中学生になったら一度は考えるであろうことを僕は中学二年生の春にふと考えていた。

「ん？なんか言ったか？」

そしていつの間にか言葉に出していた。恥ずかしい。

「な、なんでもーよ」

すこし顔をそらしながらそうつぶやいた。

「ふむ、友達ってなんだろうか、難しいな」

「聞こえてんじゃねーか」

ちなみにこの僕の独り言をかつてに聞いていたこいつは僕の入っている部活、すなわち文芸部の同じ二年生の中村だそしてあだ名はうなぎである。

「そもそも友達と顔見知りの境界線ってなんだろうな？」

「僕に聞くなよ・・・」

そんなありふれた日常会話をしているといきなり横からいつも元気なやつが割り込んできた。

「そんなの自分がこいついいやつだなって思えばもう友達なんじゃない？」

そういったこいつは同じクラスで文芸部員の宮川だそしてあだ名はみつちゃんである。

「それはアバウトすぎないか？」

そう僕が言った後うなぎはいきなり机をバン！と叩いてこういった。

「よし！今日の文芸部のテーマは友達とはなにか！で決定だな！」

そううなぎがいったところで昼休み終了のチャイムが学校中に響き渡った。

始まり。(後書き)

僕が書いていた神様物語はしばらく続きはあげないつもりです。
すみません（まあだれも待ってないと思うけど）この【友達】も次
はいつ続きを書くか未定なので期待しないでください……では読ん
でくださってありがとうございます！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9817t/>

友達～プロローグ～

2011年11月14日02時25分発行